

## (11) 沖縄



沖縄地域では、景気は回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

前回調査からの主要変更点

なし。

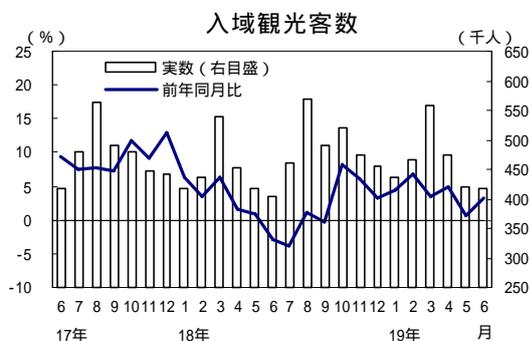
### 1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数は、4月は、東京方面からの個人客などが好調だったこと等から前年を上回った。5月は、ゴールデンウィーク期間が前年より1日少なかったものの、提供座席数が増えた東京方面が引き続き好調であったことから前年を上回った。6月は、利用しやすい時間帯に大型航空機材の投入のあった名古屋方面が好調だったことなどにより前年を上回った。4、5、6月は過去最高を記録した。

なお、7月の航空旅客輸送実績では、利用率が前年同月比で増加しており、引き続き高い水準で推移している。

4～6月期における主要ホテルの客室稼働率については、入域観光客数の増加を背景に、那覇市内ホテルやリゾートホテルが好調だったことから、全体でも前年を上回った。



### 入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月
入域観光客数	1,520	1,500	1,459	1,313
(前年比)	0.9	5.9	4.8	2.9
ホテル稼働率(前年差)	1.6	0.7	2.1	0.6

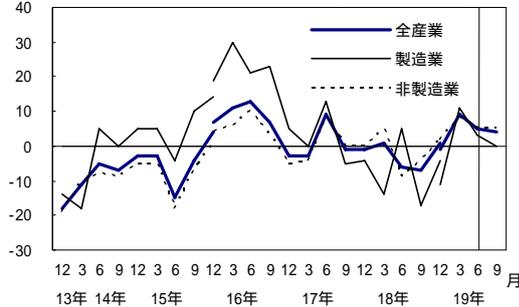
(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光商工部調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ縮小している。

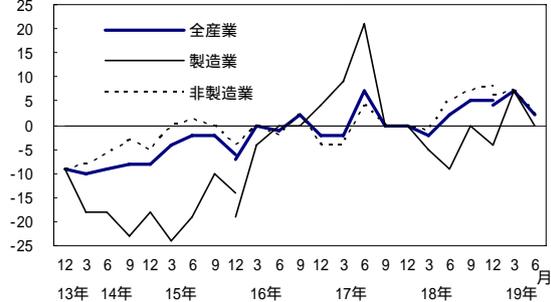
### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



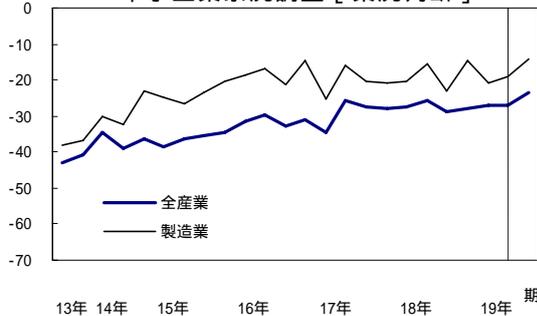
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年9月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。  
九州地区のD I。

### 景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「家電製品(エアコン)の入荷・出荷量が増え、売上は増大したものの燃料費の高騰がその分を圧迫、結果的に変わらない状況になっている(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

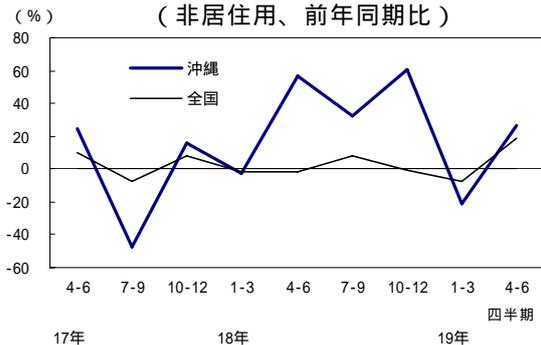
(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	7.6( 5.2)	13.3( 3.8)
製造業	0.3( 6.9)	43.2( 7.6)
非製造業	8.6( 5.0)	9.5( 6.0)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。石油・電力を除く。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は緩やかに回復している。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額

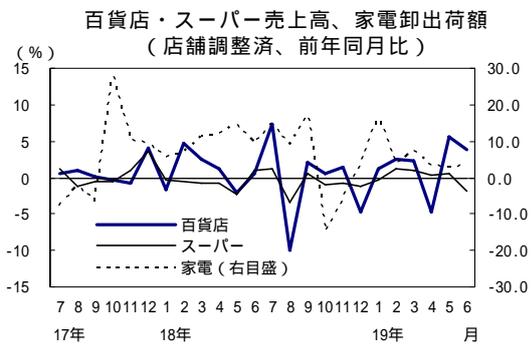
百貨店は、4月は、前年同時期における催事イベントの反動減などで前年を下回った。5月は好天に恵まれ、母の日セールなどで客足が伸び前年を上回った。6月は、催事・物産展などの実施や、クリアランスセールなどにより、紳士服や婦人服などが好調だったことから、前年を上回った。

スーパーは、食料品販売が堅調に推移し、前年とほぼ同水準となった。

家電は、地上デジタル放送開始に伴う対応機種 of 薄型テレビの売上や、白物家電も高付加価値製品を中心に売上が好調だったことから前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「衣料のクリアランス動向が良い。台風直撃の影響があり減少したが、台風以降は回復し売上は好調である。特に秋物動向が全館をけん引し、お中元ギフトの動向も活発である(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



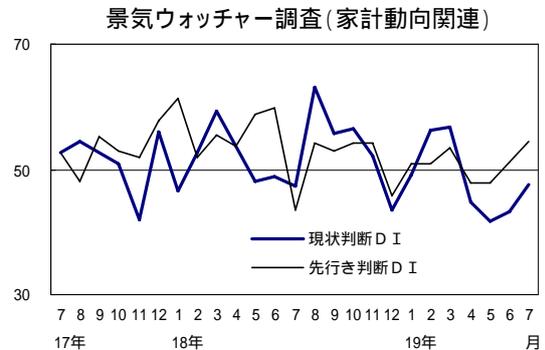
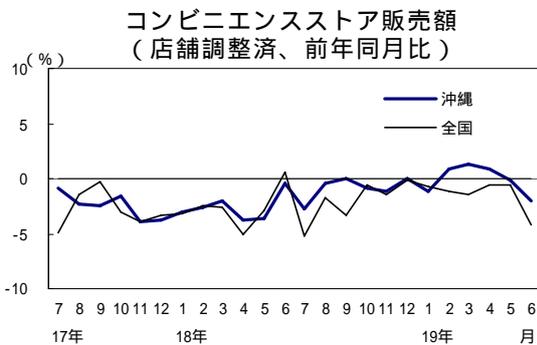
(前年同期比、%)

	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月
百貨店	0.0	1.5	2.0	1.4
スーパー	0.6	1.0	0.6	0.3
家電卸出荷額	13.8	5.1	8.7	3.1
コンビニ	1.4	0.7	0.3	0.5
景気ウォッチャー	55.3	50.7	54.0	43.2

(備考) 1. 百貨店、家電は沖縄銀行調べ。

2. スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。

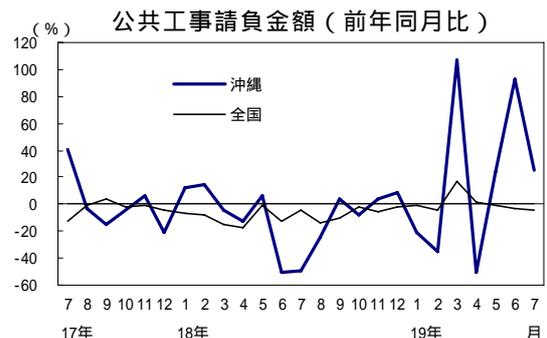
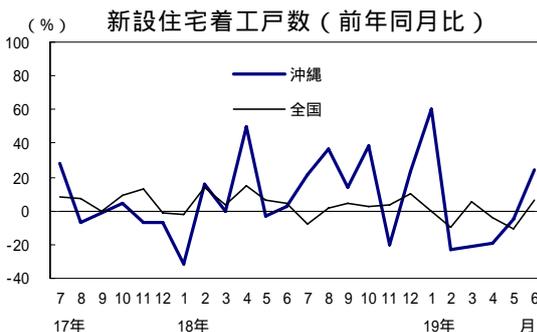
3. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



### (2) 住宅建設は減少している。

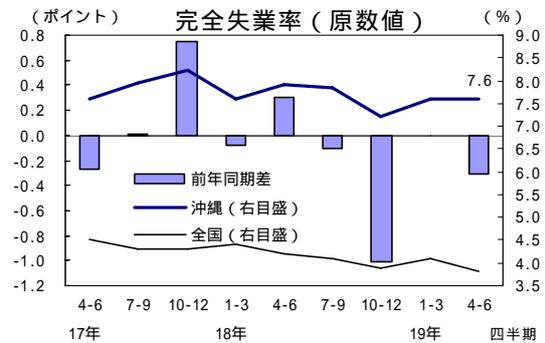
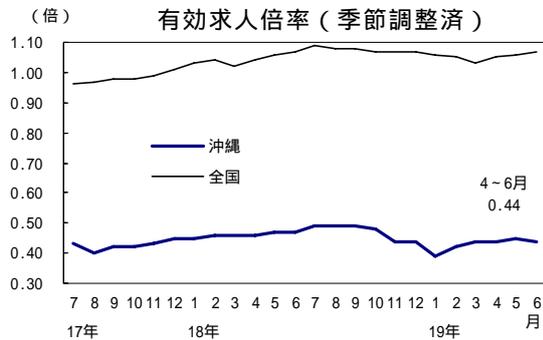
貸家が前年を上回ったものの、分譲が下回ったことから、全体では減少している。

### (3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を上回っている。



### 3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。  
有効求人倍率及び完全失業率  
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



#### 景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連 (現状)]

「派遣依頼は相変わらず続いているが、この2、3か月では伸びが少なくなっている (人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数は大幅に増加している。

- (3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月	19年7月
倒産件数	32	19	15	23	4
(前年比)	52.4	0.0	7.1	27.8	63.6
負債総額	90	285	14	44	3.6
(前年比)	67.7	698.7	75.0	16.7	90.8



#### 景気ウォッチャー調査 (7月)[合計 (特徴的な判断理由)]

##### <現状>

- ・前年に比べて、県外観光客予約状況が好調に推移している。台風の影響でかなりのキャンセルが出たが、それでも前年比105%という数字になる(その他のサービス[レンタカー])

##### <先行き>

- ・夏の観光客増加や夏祭り等のイベントには期待ができるが、競争相手の増加とインターネット販売での価格競争があり、品質の良し悪しよりも優先する感がある。プラスもあるが不安材料も多い(その他専門店[楽器])

#### 景気ウォッチャー調査 (合計)

